



サポセン

だより

「サポセン」は、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターの愛称です。

特集 ICT活用型教育訓練 実施企業インタビュー

埼玉県ではテレワークの推進やデジタル化への対応のため、「障害のある従業員にICTを活用した教育訓練を実施したい」、「新たにICT関連の仕事を任せたい」とお考えの企業の皆様を対象に今年度から「ICT活用型教育訓練」を実施しています。

今回は、実際に訓練を受講された企業にお話を伺ってきましたので御紹介します。

障壁を取り除いて
多様な能力を発揮

株式会社 シンフォニア東武

■企業概要

名称 株式会社シンフォニア東武
(東武鉄道株式会社の特例子会社)

※特例子会社制度

障害者の雇用の促進及び安定を図るため、事業主が障害者の雇用に特別の配慮をした子会社を設立し、一定の要件を満たす場合には、特例としてその子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されているとみなして、実雇用率を算定できる制度。

所在地 春日部市梅田本町1-13-1 (本社)

事業内容 東武鉄道、東武グループ会社の施設清掃、ベトナムメイク、植栽管理、社内郵便取扱、名刺他印刷、ポスター等販促物の梱包、発送業務、請求書・給与明細・健保書類等の発送業務、財務帳票整理など多岐にわたり、最近では新規事業として東武グループ会社の職員向けにパン等の物販を開始。

従業員数 79名(本社、4事業所合計)

障害のある従業員数 53名(知的)

※障害のある従業員は社内でパートナーと呼ばれている。

※令和3年9月1日現在



取材にお伺いした南栗橋事業所

南栗橋駅から徒歩7分
東武鉄道(株)の訓練施設に併設されています。

■株式会社シンフォニア東武の障害者雇用

設立は平成19年。東武鉄道株式会社が企業の社会的責任を果たし、東武沿線地域への貢献を目的として設立。

社名は、「交響曲」を意味するイタリア語「シンフォニア」から。オーケストラのように社員一人一人が持つ個性や能力を通じて、お互いの優れた部分を響き合わせたいとの願いが込められている。

「元気なあいさつ」の徹底で、親会社やグループ会社の社員からもあいさつをもらえるなど明るい職場を作り、今では親会社の選抜社員が実習にきて一緒に働くこともあるとのこと。

設立当初の障害がある社員9名のうち、7名が今でも元気に働いている。「何を望んでいるのか、とにかく話を聞くことが大事」と椎山社長

取締役社長 兼 明るくする部長 しいやま ひろし 椎山 博司 さん

明るくする部 南栗橋事業所長 おのだ ただし 小野田 忠史 さん

にお話を伺いました。



インタビューに答える
椎山社長(奥)と
小野田所長(手前)



椎山社長「障壁(バリア)を取除けば、障害者はすごい力を発揮する」

ICT活用型教育訓練受講のきっかけ

我々の仕事は、名刺作成・ポスター発送など、紙媒体によるものがほとんどでした。

しかし、現代はデジタル化の時代。将来的にはICTを使った仕事を考えていかなければならないと思っていた時に、新型コロナウイルス感染症の影響で、親会社である東武鉄道からの紙媒体の仕事（旅行ポスターの発送など）が激減しました。

ICTを使った仕事への必要性が、より感じられ、この訓練の受講を思いました。

すぐにICT関連の業務を実施するというのではなく、そういった仕事を担える可能性があるか、社員の能力を見極められればという気持ちが大きかったです。

受講者の人選

将来の事業化の可能性を探るということもありましたので、普段から自宅でインターネットをやっているなど、ある程度パソコンを使い慣れている社員を選びました。

併せて、長時間にわたって頭脳を使うような訓練となることから、ものごとをやり抜く根気と集中力があるかなども考えました。

期待した効果

まずは社員のICT能力を見極めたかったのですが、目標を達成することで自信につながってほしかったですね。

普段の仕事で我々がなかなか理解できないこと、例えば作業中に動きが止まってしまうことがあるのですが、何故そうなるのかを少しでもわかることができるのではないかとも思いました。

訓練中の様子

とにかく一生懸命やっていました。問題を解くことも、制限時間内に対応できていたと思います。

タイピングの訓練がうまくできなくて、日誌に「悔しかった」と書いていた受講生もいたのですが、「悔しい」と思ってくれたのが、逆に嬉しかったですね。



訓練中の様子
夢中になってパソコンに向かう受講生の皆さん。

訓練終了後に感じたこと

受講生の訓練後の感想で「生活や仕事に役立てるようにしていきたい」というのがありましたが、まさにその通りと思いましたね。

今回フィードバックを受けて、手順書を一部作り直しましたが、更に合理的配慮を盛り込んだ全社的な作業・生活マニュアルを作って、社員に提供して役立ててもらいたいと思っています。

訓練を見ていても、一人一人のレベル差は感じたし、精神面や性格面、対人スキルなどは十人十色なので、なかなか汎用化は難しく試行錯誤することになると思いますが、まずは手順書全般の整備から始めていきたいと思っています。

フィードバックを受けての改善

フィードバックの結果、社員の皆さんは例えば「雑巾しぼり」等の行為自体は理解していても、その手順や工程を想像することが難しいということがわかりました。

椎山社長は、すぐに作業の手順書について、実際の手順・工程をわかりやすくする工夫を始められました。

<before>

雑巾のしぼりかた

※ 雑巾がきちんと絞れていないと、作業後の仕上がりに差がでます

- 1 雑巾の端をもつ
- 2 雑巾の下の端をもつ
- 3 雑巾の下の端と上の端をあわせる
- 4 片方の手で雑巾をつかみ上から下におろす
- 5 雑巾を二つに折る
- 6 雑巾の下をもつ
- 7 雑巾をもった手を顔の方向にひねる
- 8 片方の手をまっすぐ伸ばす
- 9 手首を曲げる
- 10 肘を曲げる
- 11 手の甲が自分に見えるように曲げる
- 12 両手を伸ばしながら手首を外側に強くひねる（1回）
- 13 ギュー（強く）
- 14 上の方の手を持ちかえ両手首を外側につよくひねる（2回）
- 15 ギュー（強く）
- 16 上の方の手を持ちかえ両手首を外側につよくひねる（3回）
- 17 ギュー（強く）

参考写真 1 端をもつ 2 下の端をもつ 3 下と上の端をあわせる

<after>

雑巾のしぼりかた

※ 雑巾がきちんとしぼれていないと、作業後の仕上がりに差がでます

- 1 雑巾の端をつまんで、持ち上げる
- 2 雑巾の下の端をつまむ
- 3 雑巾の下の端を、上の端をあわせてつまむ

フィードバック後、作り直した「雑巾しぼり」の手順書の一部。以前のものと比べると、一つ一つの工程とその動きを示す写真との関連がわかりやすくなっているが、更なる改善案もダンウェイ(株)から提案されている。





受講生 インタビュー

シンフォニア東武に勤務して7年目、今回の訓練を受講された中野 陽太さんにお話を伺いました。

Q どんなお仕事をしていますか？

A 事務所の清掃や、宿泊棟のベッドメイキング、ゴミ集めなどです。

Q 訓練はどうでしたか？

A 楽しかったです。大変さは全く感じませんでした。

Q 訓練で得るものはありましたか？

A タイピングの仕方が身についたと思います。



中野さん



訓練の修了証を見せてくれた中野さん。「パソコンを使ったオンライン会議をやってみた」と前向き。

椎山社長「仕事をキチッとやるタイプで雑巾干しなど、人の嫌がる仕事を言われなくてもやってくれている」とのこと。



ダンウェイ株式会社 インタビュー

埼玉県から委託を受け、ICT活用型教育訓練を実施しているダンウェイ(株)高橋 陽子社長にお話を伺いました。

Q シンフォニア東武さんからはどんなオーダーがありました？

A 社員が活躍できる環境整備と自発的コミュニケーションを引き出す手法の提案をご要望されました。

Q 訓練実施の際に注意した点は？

A 訓練生が安心して参加でき、能力が最大限発揮できる環境をつくることですね。

Q 訓練後シンフォニア東武さんにはどういった提案をされましたか？

A 能力の可視化ができるシームレスバディというツールを活用し、社員の強みを活かした合理的配慮の提案をし、作業マニュアルの改良を勧めました。

Q ICT活用型教育訓練の利点を教えてください

A コロナ禍でもオンラインでの実施の選択が可能で、かつICTの直接的な職域の模索に加え参加者の視覚・聴覚情報の認知や発信の能力を踏まえながら、アセスメントができることですね。



ダンウェイ(株)
高橋社長

障害者雇用における ICT活用型教育訓練 実施企業を募集しています！

- ・ 企業のニーズに合わせた到達目標を定め、教育訓練カリキュラムを作成し、訓練を実施します。
- ・ 支援対象者のアセスメントを実施し、教育訓練実施後、関係者にフィードバックします。
- ・ 社内での研修のほか、リモートでの在宅研修にも対応します。

募集数

20社(1回につき5名まで)

対象

埼玉県内に所在する事業所において、ICTを活用した教育訓練を実施したい障害のある従業員、または、ICT関連業務への職域拡大が必要な障害のある従業員を雇用してる企業

参加費

無料

【お問い合わせ先】

埼玉県障害者雇用総合サポートセンター
障害者職場定着支援業務部門 TEL:048-823-9020



埼玉県障害者雇用総合サポートセンター ご案内

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、埼玉県が運営する企業の障害者雇用を支援する専門機関です。企業の障害者雇用を全力でサポートします。

1
雇用に
適した仕事を
提案します

2
雇用体験が
できます

3
働きやすい
職場づくりを
助言します

4
職場に
付き添って
支援します

雇用開拓業務部門

障害者雇用開拓員が企業を訪問し、障害者雇用制度の仕組みや各種支援について情報提供します。



☎ 048-822-3111

企業支援業務部門

障害者雇用に向けて、専門のアドバイザーが具体的な助言・提案をします。短期(3日~5日)の雇用体験(職場体験実習の受入れ)ができます。

☎ 048-827-0540

定着支援業務部門

障害のある人が職場に適應できるよう、ジョブコーチを派遣しサポートします。支援機関のスキルアップもお手伝いします。

☎ 048-823-9020



所在地

〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎 別館1階

利用時間

月~金 午前8時30分~午後5時
(祝日及び12/29~1/3を除く)



【交通】JR北浦和駅西口から
徒歩約10分



動画はこちら

埼玉県では、障害者雇用のメリットやサポセンの支援をYouTube埼玉県公式チャンネルから「サポセンPR動画」の配信をしています。約10分の見やすい動画です。ぜひ一度ご覧ください。

障害者雇用に関するちょっとした困りごとは「障害者雇用ヘルプデスク」にお電話ください。

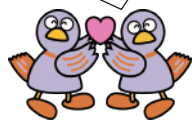
障害者雇用ヘルプデスク
コヨウブツナイデ
☎ 0120-540-271

サポセンの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

サポセンでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながら、雇用開拓、研修・セミナー、個別企業支援、ジョブコーチ派遣などの各種支援を行っています。企業、支援機関の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

企業や障害のある人の意向を最優先にします。

お伺いして大丈夫ですか？



サポセンスタッフは、感染予防を徹底します。



状況により支援の中止をお願いすることがあります。

感染リスクは避けましょう



『新しい生活様式』の実践に当たって

サポセンでは、障害者を雇用する事業所が、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら社会経済活動を行う「彩の国『新しい生活様式』」を実践するに当たり、障害のある従業員の方々への配慮ポイントを加えて整理した実践ガイドラインを作成しました。

県ホームページからダウンロードいただき、皆さまの事業所での取り組みにお役立てください。対応方法についてのお悩みは、いつでもサポセン(障害者雇用ヘルプデスク 0120-540-271)にご相談ください。



ホームページはこちら